

コード	205020302
記入日	H23.6.1

課コード	118
課名	土木課
課長名	石司 貴英
担当者	山川 吉郎

# 事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	普通河川若松川改修事業
----------	-------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	3
基本事業コード	20502	基本事業名称	治山・治水対策の推進	目コード	1
事務事業コード	2050203	事務事業名称	単独事業費(河川)	細目コード	77
関連計画	新上五島町振興計画		法令・条例規則等	河川法	

## 計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	新上五島町が管理する河川の周辺住民	(対象指標1)	288世帯			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率(上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) ・改修延長 L = 107.2 m ・全体事業費 58,929 千円	(平成22年度) ・改修延長 L = 42.8 m ・全体事業費 19,500 千円 ・頂版下面補修 A = 113 m <sup>2</sup>	改修延長	66m	71%	改修延長+計画延長	平成23年度
		改修延長	42.8m	93%		平成22年度
		① (達成率分析)	本年度の計画延長は40mとしていたが、実績は42.8mで改修延長L=66mとなった。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率(上段：全体、下段：評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		進捗率	38,429千円	65.0%	事業費+計画事業費	平成23年度
		進捗率	19,500千円	98%		平成22年度
・本河川は、長年の塩害によるコンクリート床版の鉄筋が爆裂状態になっており、落下の危険性が高くなっている。本事業により、周辺住民及び利用者の通行の安全確保を図る。		① (達成率分析)	本年度の計画延長は40mとしていたが、実績は42.8mとなった。事業の調整に伴い計画期間を変更する。			
		② (達成率分析)				

## 実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① m	107.2	66	23.2	40	42.8	41.2				
	②										
成果指標	① %	100	66	33	34	33	34				
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	61,729	40,529	20,329	20,700	20,200	20,700				
直接事業費 A	千円	58,929	38,429	18,929	20,000	19,500	20,000				
人件費 B	千円	2,800	2,100	1,400	700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円	55,900	36,400	17,900	19,000	18,500	19,000			
	その他	千円									
一般財源	千円	5,829	4,129	2,429	1,700	1,700	1,700				

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	河川の管理者である町が行うべきものである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	河川の機能及び安全性の確保については、普遍的なものであり町が行う必要がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	住民生活の安全性・利便性を向上させるための事業であり適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	ほぼ計画どおり事業が進捗しているので特別向上させる必要はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	河川の機能及び安全性の確保ができない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一の事業であり、他の事業との整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており削減できない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現在の人員を削減することは事業の推進上できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	施設の管理者である町が行うべきもので受益者負担は発生しない。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	住民の利便性及び道路の安全性を向上させるための事業であり有効である。
		効率性	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており、今のところ経費を削減することはできない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	周辺住民の危険防止のため適正な改修を図り、安全・安心な生活環境の維持に努めること。
		効率性	事業経費の執行については、適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。